

「三崎地域に新しい風を」



糸井 真司 (33 歳) I ターン
(伊方町)

1 就農の動機・理由

10 年ほど前に兵庫県から母の実家がある伊方町三崎に移住し、選果場勤務や農作業支援などでかんきつ農業に関わった。その際、山での作業に面白さを感じ、「三崎を知るには、かんきつ農業は外せない」と、かんきつ農家になることを決意した。

JA にしうわの研修制度を活用し、令和 2 年から 1 年間の研修を経て令和 3 年 4 月に就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和 3 年)	現在の経営 (令和 5 年)	将来の経営 (令和 8 年)
労働力	男 1 人(本人)	男 1 人(本人)	男 1 人(本人)
経営耕地	樹園地 132 a	樹園地 165 a	樹園地 165 a
経営内容	不知火 79a 清見 44a 甘平 9a	不知火 104a 清見 44a 甘平 8a 伊予柑 9a	不知火 84a 清見 64a 甘平 8a 伊予柑 9a

○農業用施設

農業用倉庫 1 棟

○主要農業機械

軽トラック	1 台
動力噴霧器	1 台
草刈り機	2 台
電動ばさみ	1 台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 兵庫県

就農研修歴

JA にしうわ

(R2. 4. 1~R3. 3. 31)

就農年月 令和 3 年 4 月

(2) 就農時の思い

まずは、1 年通して農作業を一人でこなすことが目標だった。剪定から出荷までの一連の作業を一人でやれるのか不安に思っていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

JA にしうわの研修制度を活用し、三崎担い手支援チームの技術研修や JA での集合研修等により栽培技術を習得した。

(2) 資金の準備

自己資金や農業次世代人材投資資金(開始型)、その他各種補助事業や資金を活用している。

(3) 農地・住宅の確保

農地は、就農時は関係機関や研修受け入れ農家から情報収集を行い確保した。就農後は、近隣農家から農地の話があり規模拡大した。

住宅は祖母が住んでいた家に居住している。

(4) その他苦労したこと

やるもやらないも自分次第なので、自分で計画を立て、自ら奮い立たせないといけない。困っているときは、周りの方がオープンに相談に乗ってくれるのでありがたい。

5 農業経営の特徴

収穫期の異なる中晩柑を栽培しており、労働分散させている。また、清見のマルチ栽培にも取り組んでいる。

三崎地区でのアルバイトや新規就農者の呼び込み活動にも積極的に参加している。

6 これからの夢

本当の意味でしっかり独り立ちし、新規就農者を呼び込むために、移住就農者の良い事例となれるよう、栽培技術や経営知識等について勉強していきたい。

7 成功したキーポイント

農作業支援や研修期間を通して、就農前に地域との信頼関係を築けていたことがキーポイントになっていると思う。集まる場には積極的に参加し、常に話しかけるなど、コミュニケーションを欠かさないようにしていた。

8 就農を目指す方へのアドバイス

実際に地域に来てみるのが大事だと考えています。地域の雰囲気は実際に地域に来てみて地域の人と話してみないと

分かりません。100 聞くより、1 行く方が大切です。ぜひ一度、伊方町三崎に足を運んでほしいです。

また、地域の一員として農業をやっていくためには、地域に溶け込めるように積極的にコミュニケーションをとることも重要です。

○ 指導機関からのひとこと

糸井さんは、日頃から自身の経営発展のみならず、地域行事への参加やアルバイト・新規就農者の呼び込み活動にも積極的に参加されております。これから、地域の一員として、伊方町三崎を盛り上げていく人材となることを期待しています。

執筆機関

南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室
電話番号 0894-23-0163



清見の摘果



三崎の海をバックに